

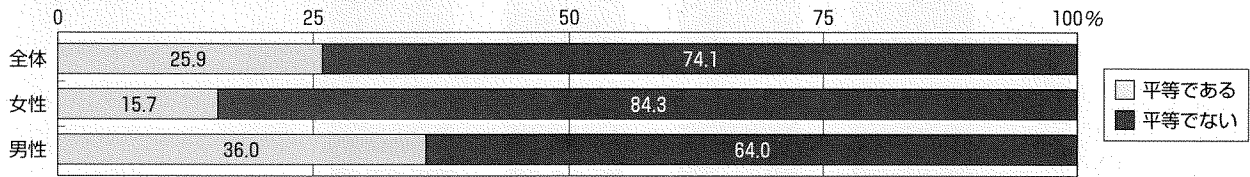
資料1 男女共同参画社会に向けての県民意識調査結果

長野県内在住の20歳以上1,000人を対象に行った意識調査。(回収率62.1%)

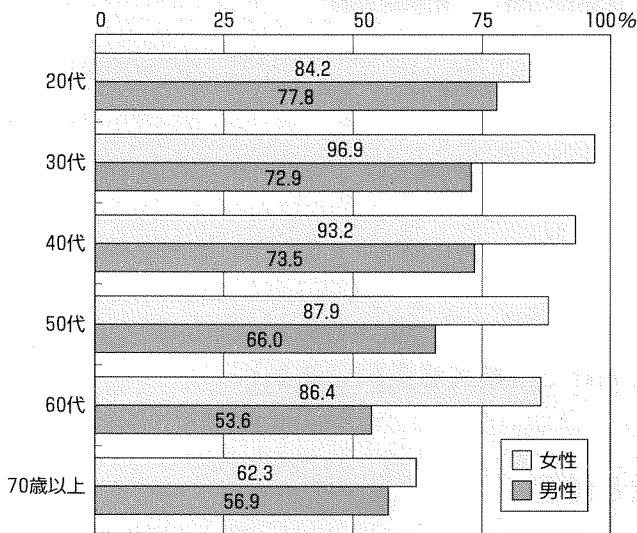
(実施期間：平成13年12月12日～12月25日) (社会部男女共同参画課)

1. 世の中の男女平等感について

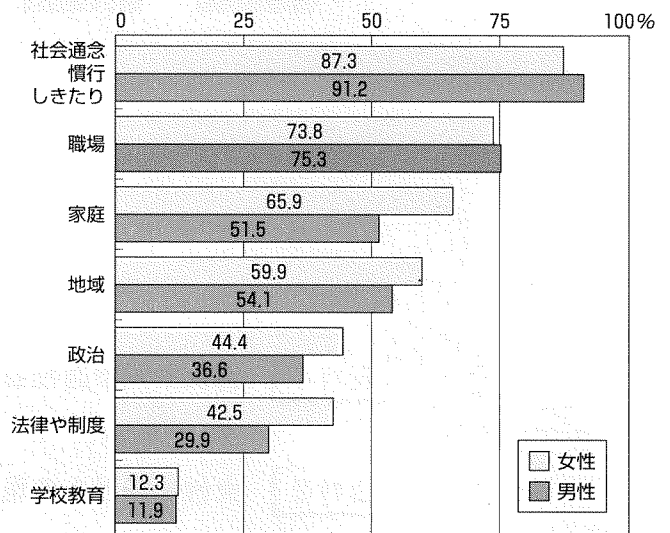
①現在の世の中の男女平等感



②「平等でない」と答えた人の割合(年齢別 性別)

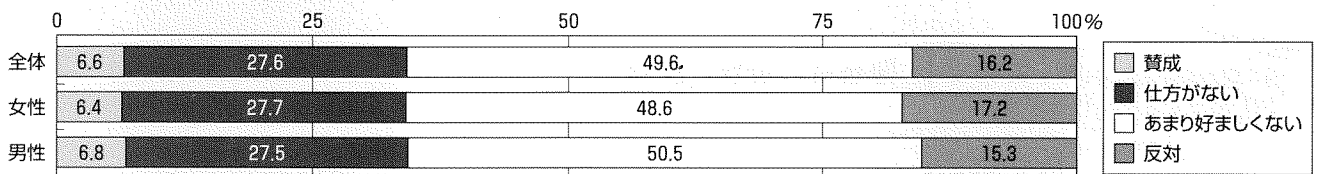


③「平等でない」と思う分野(いくつでも選択)

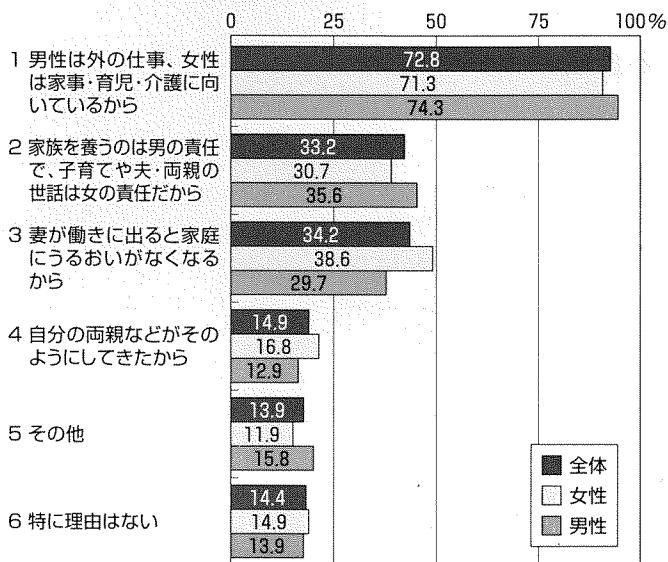


2. 「男は仕事、女は家庭」の考え方について

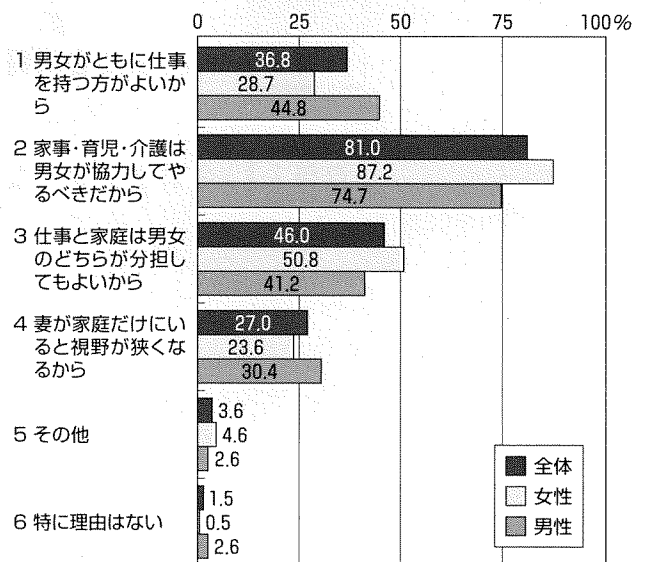
①「男は仕事、女は家庭」の考え方について



②性別役割分担に賛同する理由(2つまで選択)



③性別役割分担に反対する理由(2つまで選択)



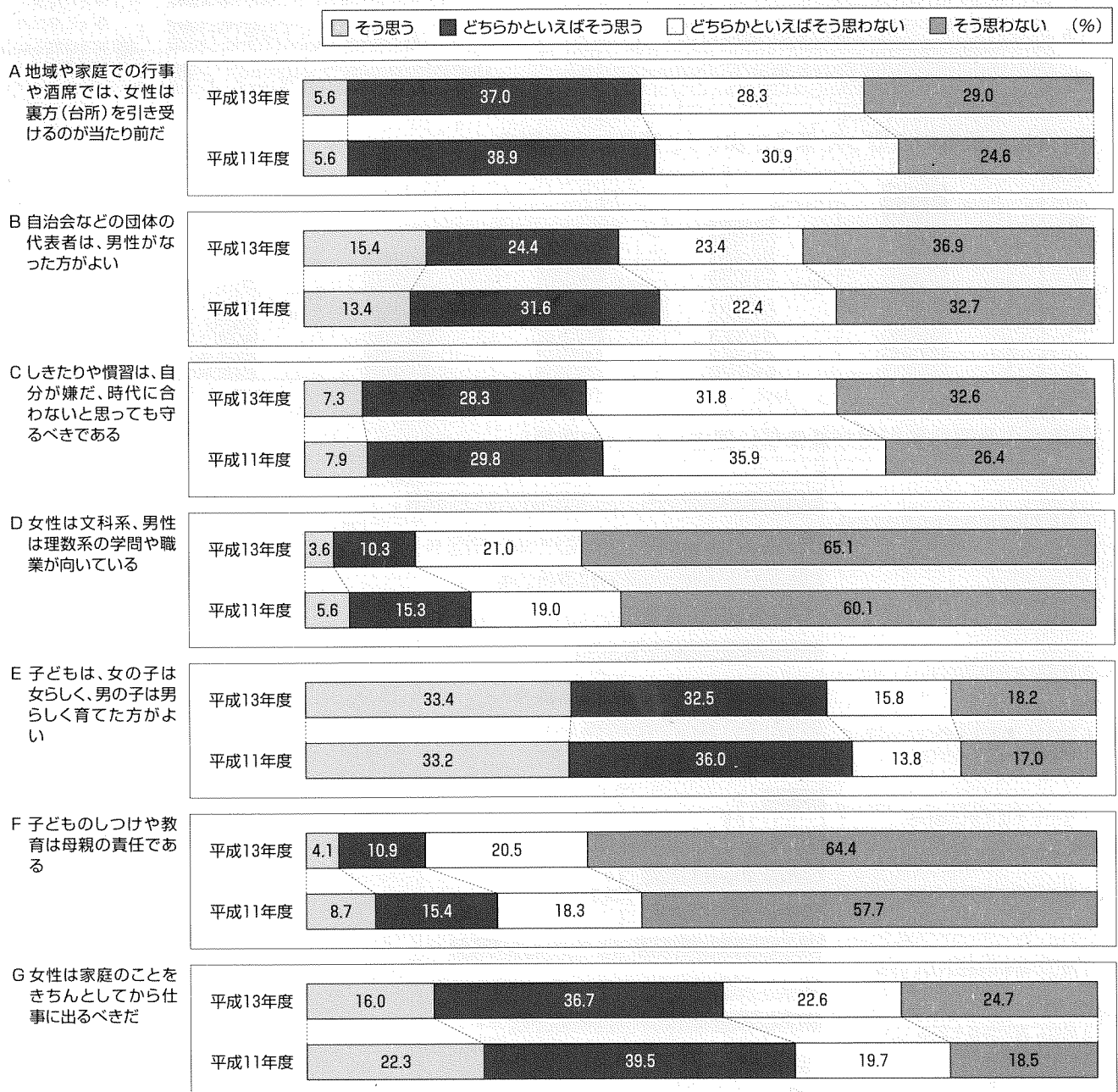
3. 性別役割分担意識や慣行等について

性別役割分担や慣行等に関する項目について「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合が高いのは、『女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい（65.9%）』、『女性は家庭のことをきちんとしてから仕事に出るべきだ（52.7%）』となっている。

11年度調査と比較すると、すべての項目において「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合が低くなっている。

一方「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合が高いのは、「女性は文科系、男性は理数系が向いている（86.1%）」「子どものしつけや教育は母親の責任である（85.0%*）」となっている。

性別役割分担意識や慣行等について



*「F 子どものしつけや教育は母親の責任である」について「そう思わない」64.4%、「どちらかといえばそう思わない」20.5%で比率同士をたすと84.9%だが、実数同士を合計して該当数で割ったものを使用しているため、四捨五入により85.0%となっている。

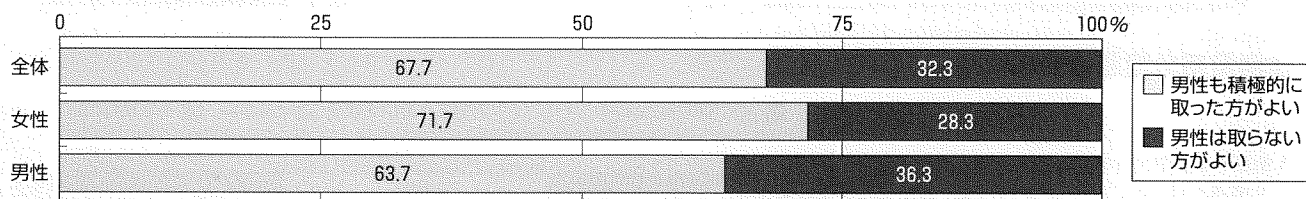
4. 男性の育児休業について

育児休業を「男性も積極的に取った方がよい」と答えた人の割合は全体の67.7%となっている。性別では、女性が71.7%で男性の63.7%に比べ、8ポイント高い。(①)

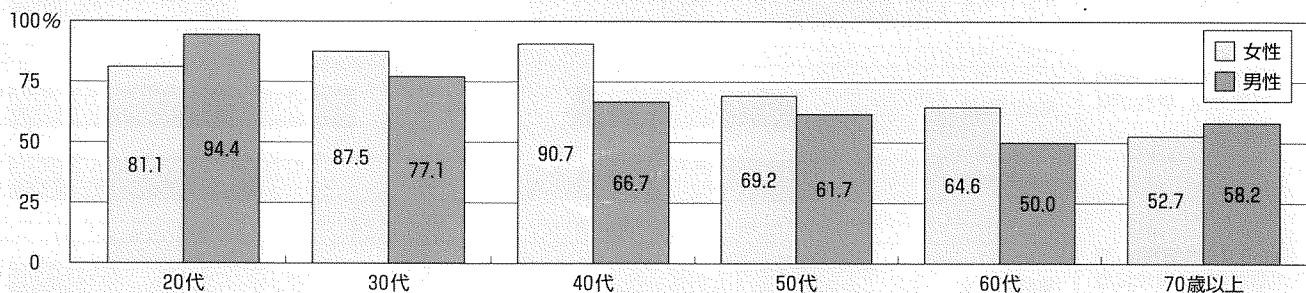
また、年齢別では、若い層ほど高い傾向にある。(②)

育児休業を取ることが進まない理由としては、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」と答えた人が51.5%で最も高く、「周りの理解が得られないから(46.2%)」「職場に迷惑をかけるから(40.1%)」などとなっている。(③)

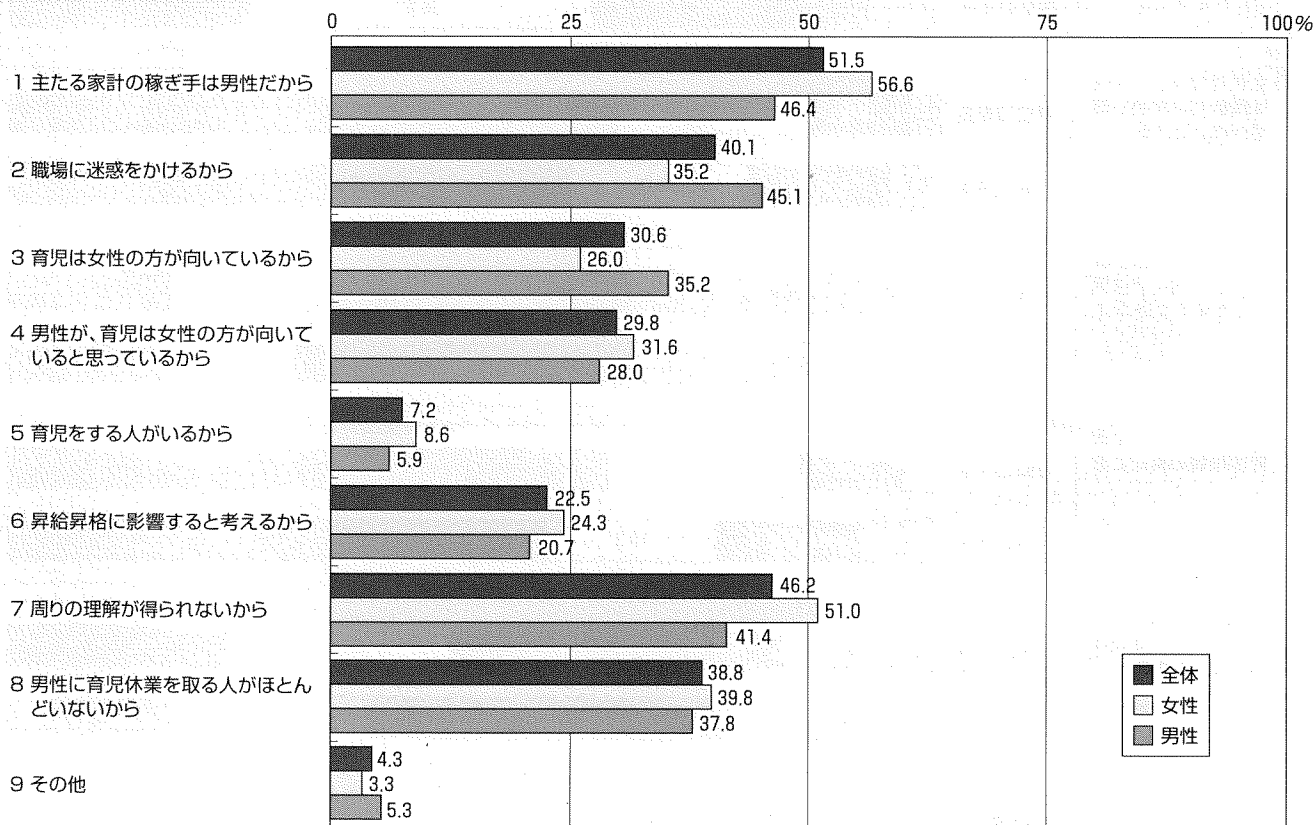
①男性の育児休業取得について



②「男性も積極的に取ったほうがよい」と答えた人の割合



③男性の育児休業取得が進まない理由(3つまで選択)



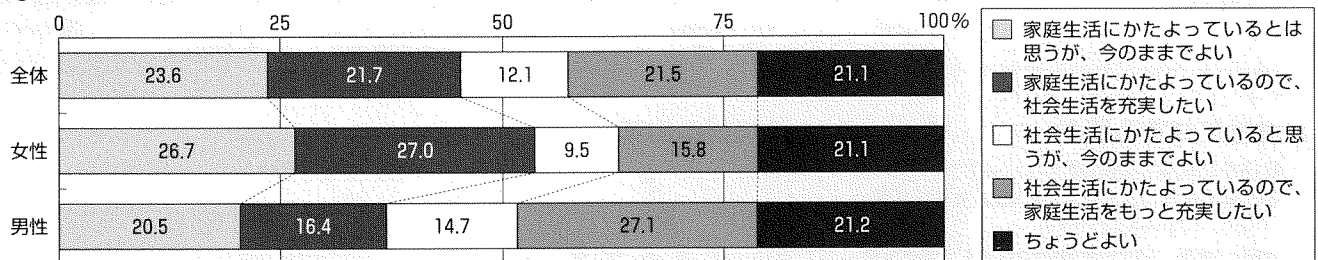
5. 家庭生活と社会生活のバランスについて

家庭生活と社会生活のバランスがとれているかについて、女性は「家庭生活にかたよっているので、社会生活を充実したい (27.0%)」「家庭生活にかたよっているとは思いますが、今のままでよい (26.7%)」と答えた人の割合が高い。

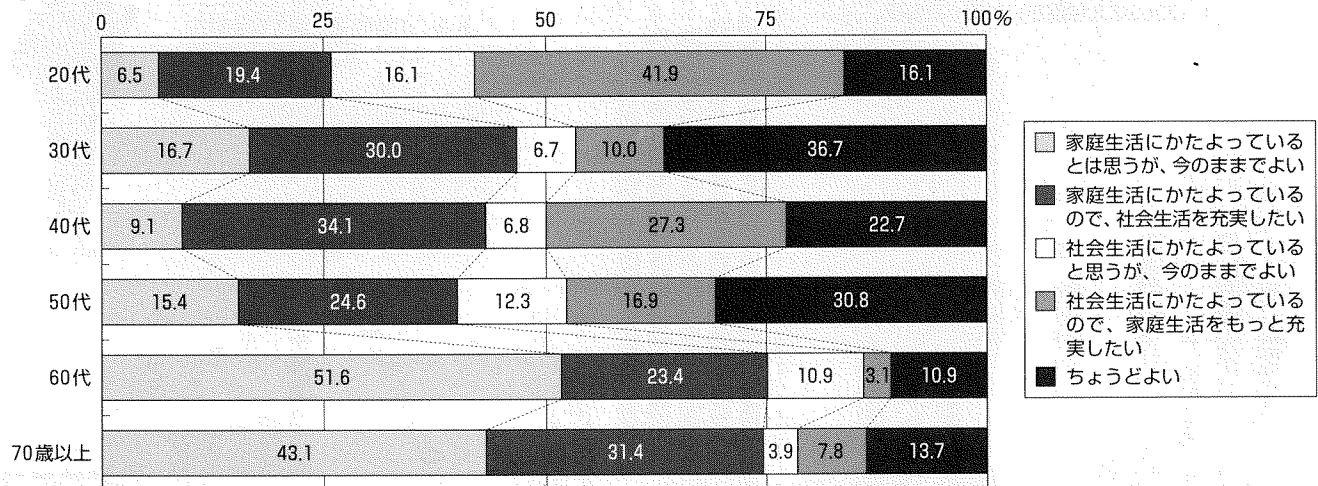
一方、男性は、「社会生活にかたよっているので、家庭生活をもっと充実したい (27.1%)」「ちょうどよい (21.2%)」と答えた人の割合が高い。(①)

性別、年齢別で見ると、「家庭生活にかたよっているので、社会生活を充実したい」と答えた人の割合が高いのは女性の30代 (30.0%)、40代 (34.1%) で、「社会生活にかたよっているので、家庭生活をもっと充実したい」と答えた人の割合が高いのは男性の30代 (50.0%) となっている。(②、③)

①家庭生活と社会生活のバランス



②家庭生活と社会生活のバランス(年齢別 女性)



③家庭生活と社会生活のバランス(年齢別 男性)

